

2024. 7. 5. (FRI).

校長室の窓から

『この子らと共に』 ～ For the students～

京都光華中学校高等学校

澤田 清人

『教師の本質』

先週末に教育実習を終えた学生から令状が寄せられています。大学に戻って、また時間的には余裕のある生活を送っているのではないかと思います。逆に、とても忙しかった3週間を懐かしく思っているのでしょうか。社会に出れば、大学生の時代がいかにのんびりとしていたのかが分かるものですが、教育実習を通してそ



のことに少しでも気づいてくれていれば、それだけでもこの取組の意味があったということだと思います。以下に、一番早く届いた実習生からの令状の抜粋を掲載します。

(前略) 長いようで短かった教育実習では、生徒たちの明るい快活な姿に救われながら、教師に必要な心構えや指導技術など多くのことを学ばせていただきました。

保健の授業では、導入でいかに生徒の心を掴み、かつ心に刻み込ませる授業ができるか、その難しさを痛感しました。また、授業を進める中で、生徒の質問に対して、私自身の勉強不足により対応に戸惑うこともありました。このような体験から、授業は予定通りにはいかないことを感じ、どのようなことに対しても冷静に対応できる知識や判断力を身につけることが必要であると学びました。また、授業外においても、日々生徒と関わりを増やしていくことによって、信頼関係が生まれ、私の言葉一つひとつを聞く姿から生徒にとって「先生」という存在はとても大きいものだと再認識することができました。

京都光華中学校で実習させていただいたことで、教師になりたいという思いが強くなりました。先生方のご厚意や実習の教訓を活かし、良き教師として教壇に立てるよう勉強に励みたいと考えております。至らない点が多くあったと思いますが、沢山のご指導をいただき、誠にありがとうございました。(後略)

「導入で心を掴み、ここに刻み込ませる授業をつくる」「どのようなことに対しても冷静に対応できる知識や判断力を身につける」「日々生徒と関わりを増やしていくことによって信頼関係が生まれる」など、現役の教師が心得ておかなければならないことを思い出させてくれます。私たちは日頃からこの実習生のようなピュアな気持ちをもって生徒と関わっているのでしょうか。忙しい毎日の中で、いつの間にかこんな感覚を忘れてしまっていないかと不安になるとともに、いくつになってもそんな生徒との関りをしたいと思い直したりしてもいます。

「実習させて頂いたことで、教師になりたいという思いが強くなりました。」

私達も彼女と同じように感じた経験があって今があるはずです。教育実習の終了式のあいさつで次のように述べました。「私の教育実習はもう40年以上も前のことですが、皆さんと同じようなことをやりました。この形は変わらないし、変えられるものでもありません。それは教育の原点が“人を育てる”という崇高な営みだからです。」